

# 愛 労 連

愛知県労働組合総連合

名古屋市中区新栄一丁目22-18

TEL 052-262-1377

発行人 阿部 精 六

第2号 1990年1月16日

90春闘勝利・総選挙必勝へ!!

## 愛 労 連 臨 時 大 会

◇日 時 2月2日(金)午前10時～午後5時

◇場 所 愛知県勤労会館小ホール



45歳、勤続30年  
基準内賃金292,120円  
(残業月29時間で)  
手取り約30万円

# 子供の教育費で大変

母ちゃんの分が(パート)吹っ飛ばす

## '90春闘へ

# 誰もが二万円上って当然

## 腹をくくってたたかいたい

「日本人は豊かになった」、「世界一の金余り国だ」とよく言われる。確かにニューヨークやロサンゼルスの高層ビルからアメリカの伝統ある映画会社まで買収する。ゴッホやピカソの絵を途方もない額で落札する。国内では何百万もする黄金の冷蔵庫や何千万円もの福引袋が売れていく……こんな姿をみると「そんなのか」とも思う。しかし、本当に私達は豊かなのだろうか? 国を支え、企業発展の土台となっている圧倒的多数の労働者の生活は、それにふさわしい中味になっているのだろうか? 九〇春闘を前に一人の労働者にスポットをあてて考えてみたい。

### 亭主の小づかい一万円

### ラジカセで息子とけんか

中嶋義雄——四十五才 占める中小企業で働く一平津島市にある一町工場に勤めている(鈴木鉄工所) 均的な労働者、オヤジだ。中嶋さんは中学を卒業すると同時に今の会社へ入社 勤続三十年のベテラン旋盤工だ。 中嶋さんの月収は基準内賃金で二九二、一〇〇円。父、祖母の七人である。日「残業を毎月二十八時間、本の労働者の圧倒的多数を 二十九時間やって、手取り

### 中嶋

### 義雄さん

(鈴木鉄工所勤務、旋盤工、妻、浪人生の長男、高一の二男、中一の長女、祖父、祖母の七人家族)

が約三十万円である。 浪人している長男は、今 河合塾へ通い勉強強、月謝は年間七十万円。二男は県立高校へ通っているが修学旅行の積立て含め月一万三千円、中一の長女はクラブ活動含めて月一万円かか

る。「毎月朝九時から五時迄、近くの鉄工所でパートで働くカミさんの給料(月九万円)は、三人の子供の教育費で消えてしまう」と言う。おじいちゃんとおば

あちゃんに老齢福祉年金が 二男も大学へ行かせんわ けにはゆかないし、頭が痛いですわ。しかし、長女まで「大学へ行きたい」と言ったら、「家が破産するからあきらめよ」と言うつもりです。こう語るオヤジの心は重い。

「五年程前は、毎年一泊二日の家族旅行をしていました。しかし、息子が高校へ入ると同時にそれも出

「昨年末のボーナスの手取り六十二万円もすべて大学の入学金の準備で消えまして」「家のローンがないのがせめてもの救い」である。

三人の子供を持つ中年のオヤジにとって教育費の負担はしんど響く。「浪人の息子は、どうしても国立へ行ってもらわなければ困りますよ。名工大志望ですが今のところ合否は五分々の可能性らしい。もしすべ

たら本人は「私学へ行きたい」と言っていますが、とても無理だから「働いて夜間で我慢をせよ」と言うつもりです。長男が行くのが次々と伝わってくる。

「九〇春闘は誰もが三万円位上るようにはしたくないです。一万円程度では上った気がしませんよ」「そのためには組合がまず、ヤル時はヤル」「腹をくくってたたかう」ことが力ギだと思

「九〇春闘は誰もが三万円位上るようにはしたくないです。一万円程度では上った気がしませんよ」「そのためには組合がまず、ヤル時はヤル」「腹をくくってたたかう」ことが力ギだと思

「九〇春闘は誰もが三万円位上るようにはしたくないです。一万円程度では上った気がしませんよ」「そのためには組合がまず、ヤル時はヤル」「腹をくくってたたかう」ことが力ギだと思

「九〇春闘は誰もが三万円位上るようにはしたくないです。一万円程度では上った気がしませんよ」「そのためには組合がまず、ヤル時はヤル」「腹をくくってたたかう」ことが力ギだと思

「しかし、残業がなくなったらとても食っていけないしねえ。その時は夜にアルバイトせざるをえませんよ」「今、一番の不安は家族で誰かが病気になることですよ。いっぱい々の生活ですから、もし誰かが倒れたらくらしの歯車が狂ってしまします」「中流って、とんでもない。他人事です。よ。年収一千万円以上の人言うことですよ。馬鹿馬鹿しい」「そう語る言葉に実感がこもる。

### 大事な地域ぐるみの闘い

ゆとりが 徳高へ登りたい…

昨年一番腹がたつたのは「消費税」ときっぱり言う。中嶋さんの組合は、長い間全国金属労働組合に加盟していたが、連合へ加盟した全金では聞えない」として一昨秋、全金を脱退、今は全日本金属情報機器労働組合に加盟している。

「海部・津島でも三月には地域センターをつくる」と、みんなではりきっているんですよ。私も新しい運動づくりに参加してゆきます」「私の願いは、又昔のように山登りが出来るようになることですね。今は金がないからダメだけど九〇春闘でたくさん賃上げして、息子も大学に合格し肩の荷が少しだけおろたら、白山か徳高へ登ってみたいですね。それに、しばらく出来なかった家族旅行も……こう語る中嶋さんの顔はすがすがしかった。

### 夏の残業で体調を崩すが 残業なくては生活できぬ

中嶋さんは、「毎年八月になると決まって胃が痛くなり心臓の調子もおかしくなる」と言う。症状は十二月まで続く。暑さで夏の残業がこたえるのだそうだ。





# お父さんの姿が消えていく…

## 家ではあてにならなくなった



# 一緒に夕食をとる日がほしい

## 夜勤の時はイライラする主人

### 40代なのに体はボロボロ

#### (家庭からの)告発

#### 井料妙子さん(41歳)

カロシ(過労死)という言葉が、国際語になった。超過密労働、ただ働きが史上最高とも言われる好況の陰に隠れてまかりとおっている。とくに民間、大企業職場に多い。それは又「連合」の牙城でもある。大企業職場の労働実態はどうなっているのか? 愛労連は、民間とりわけ大企業職場の「超過密労働、ただ働き、無権利、過労死」問題に正面からとりくむ方針を提起している。愛労連結成以来、大企業職場の労働者との懇談もはじまった。アルミ精錬のトップメーカーであり、名古屋の代表的独占企業の一つである住友軽金属名古屋工場に働く井料正行さん(四十八才)の奥さん、井料妙子さん(四十一才)に、「妻の目」「家庭の目」からみた姿を語ってもらった。あわせて、御主人からは職場の実態について談話をいただいた。



井料妙子さん(41才、共働き。中2の長女、中1の長男の4人家族)

**三直二交代で土曜、日曜も関係ない**

主人は住友軽金属名古屋工場に勤めています。昭和三十四年が入社ですから、もう三十年間になるんです。仕事はアルミの熱処理をしています。

最近、お父さん(主人)の姿が家庭で消えてしまってきているんですよ。主人の勤務は三直二交代、三日間夜勤、三日間日勤、三日間

休みの勤務です。時計の振子のように土曜、日曜も関係なくくり返しているんです。

**お父さんがいないのが、当前の生活に**

いつも残業がありますので、昼勤の時は朝六時半に家を出て帰宅するのは夜九時半、夜勤の時は夕方七時半に出て朝帰るのは九時半頃です。私も共働きで看護婦(日本赤十字病院勤務)をしていますので、子供の生活です。何か相談しようとしてもすべし出来ないので、一緒にいてもあてにならなくなりましたね。

来ません。もう家では「あてにならないお父さん」になりました。

**新婚時代と逆山登りしてもすぐ息切れる**

夜勤の時は、主人はムツツリしています。神経がイライラしているのがよくわかります。

「ちょっと休もう」とすぐ立ち止るんです。まだ四十代だから普通だったらこんな体にガタがくることはないと思うんですけどね。私のように看護婦は仕事の性格上夜勤は必要ですが

## 夜勤の仲間が酒量が増える

### 三年間で十七人が在職死

#### 井料正行さん(勤務・48歳)の証言



井料正行さん

時半まで早出し、そのまま翌朝七時半まで勤務)。夜勤交代の人はきまってる酒が増えるんです。短い時間に寝ないから神経が高ぶるんですよ。

#### 36才で突然死

#### 拘束13時間が恒常化

#### 百人に一人が長欠者

#### 会社のために耐えよー労組

住友軽金属では、三年前より四直三交代から三直二交代になり、仕事がつづくなりしました(※三直二交代の勤務は、昼勤—七時半から十六時十五分まで勤務の後二十時半まで残業。夜勤—二十時半から二十一

去年の四月二十五日、自主管理運動や改善提案活動で「工場でもトップクラス」と言われた三十六才の仲間が急性心不全で死にました。職場にショックが広がりましたねえ。誰もが「疲れすぎだよ。原因は長時間超過密労働だ」と、瞬間的に思いましたからね。死んだんじゃないかって殺された

病院長欠者も多いんです。網膜はく離、うつ病、心筋梗塞、痔、胃かいようなどが増え、百人に一人の平均で長欠が出ています。たまたま残業がなく早く家へ帰ると女房や子供は、「一体、どうしたの?」っ

組合は「がまんしろ、がまんしろ」の一点張りですよ。過労死なんて、言葉もとり上げていません(※住友軽金属労組の委員長は「昨年の秋の大会で、長過密労働で苦しむ労働者の犠牲に對して「エイズではないが私たちが耐えること、努力することという大きな免疫

主人は、最近「神経痛だ」とか「歯が浮く」とかあちこち体が痛んできています。

主人も私も山登りが好きで、新婚時代は年に三十回位山へ登りました。主人がドンドン歩いていき、私が「ちょっと待ってよ」と言うのがその頃の決まり文句でした。しかし、今は逆なんですよ。山登りの回数もめっきりへりました。たまたま行くと、主人はすぐにハアハアと息を荒くし、「ちょっと休もう」とすぐ

「自分の体を犠牲にして、そんなにやらなくてもいいじゃないの。組合に言うてよ」と言うんですが、主人は「頼んでも無駄だ」と答えるばかりです。

夜勤の二交代なんて非人間的ですよ。家庭生活も崩壊されるし、本人の体はガタガタになるし、それに人間として文化に触れるとか余暇を楽しむとか、人間を育てる時間が全くありませんものね。

「ああいう仕事(熱処理)は本来夜勤なんかやらなくてもいいんじゃないですか。夜勤や残業がいつももあるのが間違ってる

人間らしい生活が望みです

「夜勤はもうやめてほしいですね。本当に。残業も出ればなくして欲しい……」そのためには賞金ももっと上らなければだめでしょうね……。

人生に一度でいいから「がんばる組合」を経験したい

顔をしているんですよ。飯も用意してなくてねえ。「俺はどういう人生をおくっているんだろ?」何か複雑な気持ちにされますねえ……。

を武器に皆さんの力をもう少し企業に貸して欲しい」と挨拶した。

夜勤があつて辛いのは、社会的な生活が遅れないことですね。人と飲んだり遊んだり、家族と団らんしたり——そんな機会は今当分に減りましたねえ。

人生に一度でいいから「がんばる組合」を経験したい

「闘う組合」を経験したいですねえ。だって学校を卒業してずーっといいいい位、住金しか経験していませんからねえ。がんばる組合をみたことがないんですよ。

愛労連には期待していますよ。無権利状態に近い体感がクタクタになって働いている「大企業職場の問題」を愛労連がとりあげてほしいですね。そうすれば、僕達ももっと勇気がわいてくるなあ……。